

氏名	片岡 久美恵
授与した学位	博士
専攻分野の名称	博士（看護学）
学位授与番号	博甲第5380号
学位授与の日付	平成28年 3月25日
学位授与の要件	保健学研究科保健学専攻 (学位規則第5条第1項該当)
学位論文の題目	Altered autonomic nervous system activity in women with unexplained recurrent pregnancy loss (原因不明の不育症女性における自律神経活動の変化)
論文審査委員	深井 喜代子 教授、 松岡 順治 教授、 兵藤 好美 准教授

学位論文内容の要旨

原因不明の不育症女性における心拍変動 (Heart Rate Variability:HRV) から自律神経活動を評価した。また、抑うつや不安のスクリーニング尺度であるKessler 6 (K6) と流死産の悲嘆を表す Perinatal Grief Scale (PGS) により心理的状態を評価した。不育症群では、自律神経活動全体の活性を表す心拍標準偏差 (SDNN) ・TP値、副交感神経系活動を反映するHF値が有意に低値を示したが、交感神経活動を反映するLF/HFは対照群と同等であり、相対的に交感神経系が優位であると推察された。このような変化は、心血管疾患の予後不良時やうつ病・不安障害等と同様であった。また、不育症群ではK6のスコアが高値を示しており、K6あるいはPGSスコアとLF/HFとの間には、弱いが有意な正の相関が見られ、心理的苦痛と交感神経系の状態とが関係している可能性がある。このように、不育症女性において、心血管疾患のリスクがあることや心理状態が自律神経活動に影響を及ぼすことが示唆された。また、HRVに関する研究は、現在は原因不明である流死産の機序における自律神経活動の役割を明らかにし、新たな治療的な提案につながる可能性がある。

論文審査結果の要旨

論文審査要旨：この論文は、原因不明の不育症女性において心理的苦痛と自律神経活動との関係を検討したものである。対象者は岡山大学病院の不育症外来を訪れた流死産を1～4回経験した女性100名（不育症群）と、流死産の経験の無い健康女性61名（対照群）とした。心理的苦痛は標準化ツールであるK6（抑うつの評価）とPGS（流死産の悲嘆評価）を用いて評価し、自律神経活動は、指尖動脈で誘導した心電図から心拍変動のスペクトル解析を行い、SDNN、TP値、交感・副交感神経活性値を求めた。その結果、不育症女性では、うつ症状を呈する傾向があり、その程度は交感神経活性と弱い正の相関があることを見出したが、この現象を明らかにしたのはこの研究が初めてである。生理指標による看護現象の理論的解釈については若干の課題を残すが、看護実践に客観的データを活用し対象理解を深めようとする研究姿勢は評価されるものであり、将来の研究計画にも言及できている。

以上より、研究の独創性と今後の発展性の観点から、本論文は保健学研究科看護学分野における博士論文に適合すると判定した。